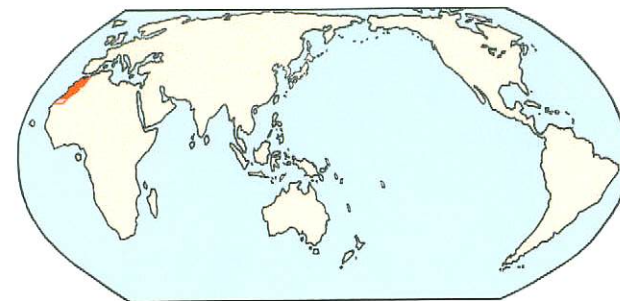




・モロッコ

モロ ッ コ 紀 行



古都と遺跡

ムーレイ・イドレスとヴォルビリス



▲ハッサンモスク入口と通路
神学校に使われている。通路
から先には異教徒は入れない。



ムーレイ イドレス



ヴォルビリス

▲柱の上の欄
このような高い所に
多く巣を作るようだ。



▲遺跡中央部の建物 遺跡の中心部にある。
間かなかったが、神殿の跡か？



▲凱旋門の前の港まで続くという大通り
何十キロか続いていたという。車の轍の
中の敷石が残っている。



▲街の中央広場 サッカーに興じる子どもたち。



▲道路沿いに八百屋 生活感に溢れた町である。



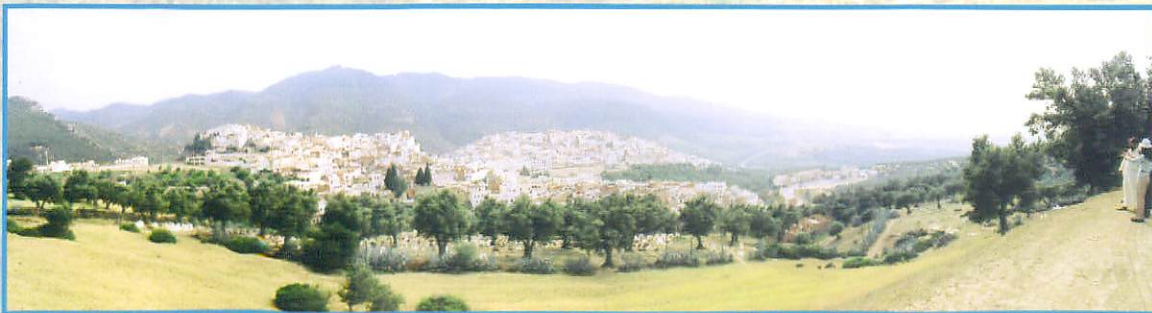
▲豪商の家の床のモザイク
かなりの家に、それぞれ立派な
モザイクが残されていた。



▲凱旋門
この門の前に広い
道路が続く。



▲遺跡の入り口
辺りの建物跡

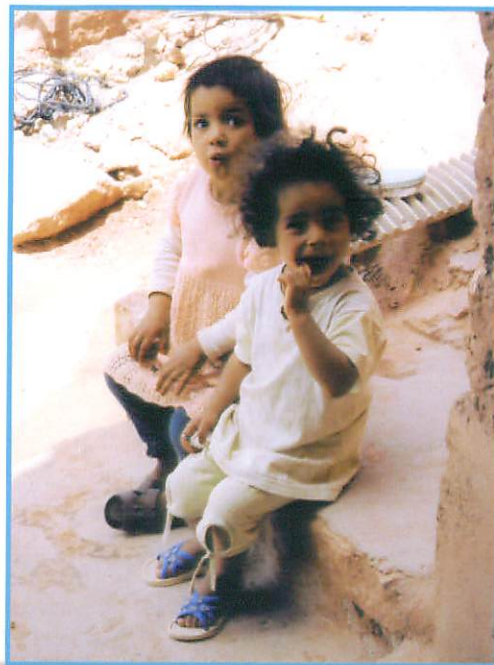


▲反対側の丘の写真ポイントから全景を望む かなり下ってかなり登った所にある。

モロッコの子どもたち



◀空手を練習する子たち
(ヴォルピリス遺跡で)
遺跡の真ん中で空手の稽古をしていた一団。先生に声をかけると、「オーイ、集まれ!」記念写真を撮った。



▲クサルの子(アイト・ベン・ハドゥ中腹)
中を案内してくれた家の子ども。人懐っこく可愛い子たちだった。

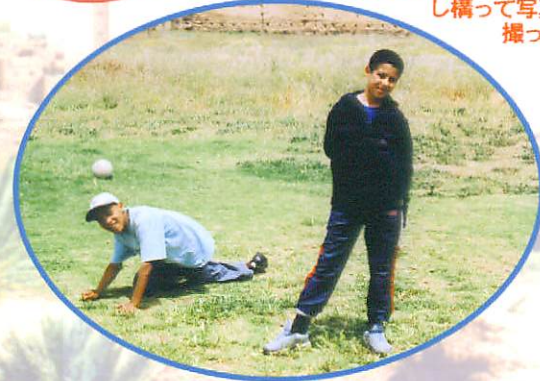


▲子ヤギを抱く(フェズ郊外)
フェズ郊外で。

◀黒い子犬と(メクネス)
イスラム圏では犬は少ないが、珍しく子犬と遊んでいた。



▼サッカーに興じる(メクネス)
ムーレイ・イスマイル廟の入口でサッカー遊びをしていたので、少し構って写真を撮った。



◀フミース門の側にいた子
(メクネス)
メンバーの一人に鈴を貰って素朴に喜んでた。



▲リーダー(ズィズ谷の村)
オアシスの写真タイムに集まって来た子たちのリーダー。ボールペンをねだる子を止めていた。



▲"僕を撮って!"(フェズ)
道の途中で、撮って撮ってと前に飛び出してきた子。

▶水泳の稽古?(マラケシュ)
バビヤ宮殿中庭の隅で寝そべったお兄ちゃんと真似をする妹。



▲ハーン、ハポネ!(ラバト) モハメドV世廟に遠足に来ていた子たちと父兄。ハーンと手を振ったら。



▲緊張(フェズ)
一人でいた子に一寸ポーズを付けたので緊張しちゃった。

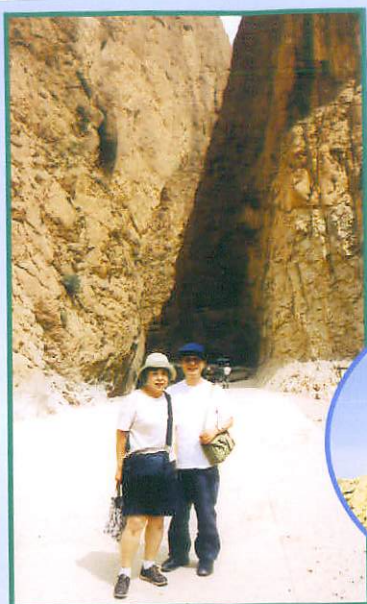


▶学校帰り(フェズ)
この町ではみんなこんな感じのランドセルを背負っていた。



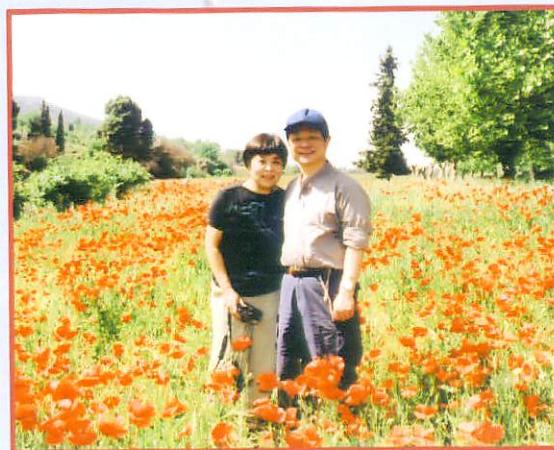
▲一寸ポーズを(フェズ)路地に入って。

私たち

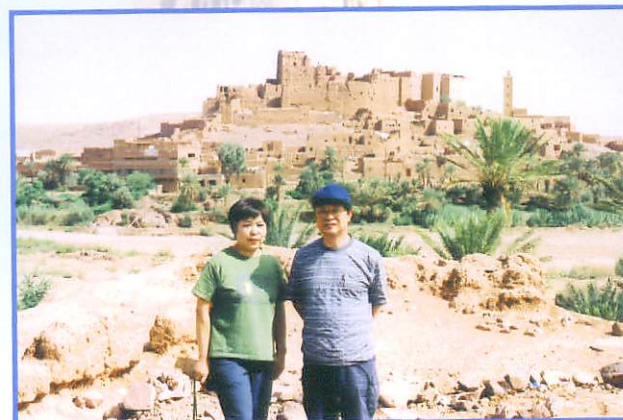


▼カッターラ（地下水路）の口
2m位の高さの真ん中に穴がある。

▲トドラ溪谷で



▲フェズ郊外のケシ畑 この国には、ケシ畑が多かった。
麻薬のためではなく、実が料理に使われる。



▲ティフトウトのカスバの写真ポイント

→屋上で鶴の巣
をバックにして。



▲カサブランカバーの朝食
映画のセットそのままに造られている。



▲シンボルハッサンII世モスクを海越しに



◀高台からフェズの街を背景に
この高台から、フェズの新旧市街が一望された。



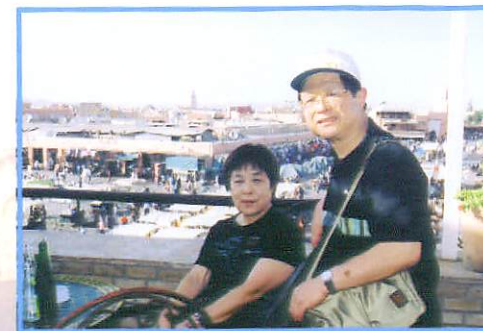
▼クスクスを食べる
(メクネス)
この国の名物料理。



▲サハラ砂漠の朝（エルフード近郊）
朝4時前の出発で、サハラ砂漠に入り、
高見から朝日が昇るのを見た。



▲バビヤ宮殿ジャカラランダの下で
国のあちこちにこの花が綺麗に
咲いていた。



▲ジャマ・エル・フナ広場を下に見る

◇モロッコ紀行◇

(05/4/29 ~ 5/9)

発端 モロッコは、以前からかみさんが希望しているところだった。春フニャの死があって旅に行けなかったのと、かみさんの時間が昨年までに比べ多少自由になったことから、連休を使って出かけることにした。

エールフランス航空で、パリ経由カサブランカへ到着。フェズ周辺を経て南下してカスバ、砂漠の内陸地方へ、カスバ街道を経て再び北上してマラケシュへ、そして再度カサブランカとほぼ国内一週。なかなか見所の多い旅だった。ただエールフランス航空の不愉快な対応は、折角の旅に大きく水を差した。

カサブランカ

この国第一の都市。街の象徴ともいえるハッサンⅡ世廟の巨大さには驚かされた。塔の高さ 200 m、中だけで 25000 人を収容する。新しいだけに空調なども整っている。海岸沿いにあり、広場や市場を除けば欧米の近代都市と変わらない雰囲気である。

ラバト

現国王の王宮を持つ首都。つまみ食いの観光だったので細かくは解らないが、やや散漫に感じられた。古いものはカサブランカよりあるようだ。

メクネス

ラバトとフェズの間にあるこの国第五の都市。17世紀アラウィ朝のやたら元気だった国王ムーレイ・イスマイルの廟などがある。モロッコは何々門という門が多いが、北アフリカで一番美しいというマンスール門もあった（どうもそれ程に思えなかった）。

ヴォルビリス

ローマ遺跡、BC25 ~ AD285。油の取引などで繁栄した町だそう。凱旋門正面から今も石畳が残る大通

りが真っ直ぐに伸び、当時は海まで続いていたという。モザイクの美しい豪商の屋敷跡が多く残っていた。

フェズ

やや内陸に入るこの国一番の古い都市である。世界遺産に登録されている旧市街のメディナは、上り下りの多い 9600 もの通るのも難しい程の狭い通りを持つ大迷路、2×1 キロの中に 35 万人が住むという。何でも売られており、その狭い道をロバやラバが山ほど荷物を積んで引かれてくる。

エルフード周辺

エルフードはアンモナイト・オーム貝などの化石の宝庫。全体が海底の隆起地形のようだ。

サハラ砂漠 フェズから山越えで南下、エルフードはサハラ砂漠に接する。朝三時起きでメルズーガ大砂丘で日の出を見る。駱駝がタクシー顔で待っていた。

ベトウィンのテント 帰る途中、ベトウィンのテントに立ち寄る。十人位の家族で、移動生活をしている。

トドラ溪谷 カスバ街道からやや北上したところにある溪谷、小さなトドラ川を挟んで 200 m の絶壁が聳えるロッククライミングの名所である。

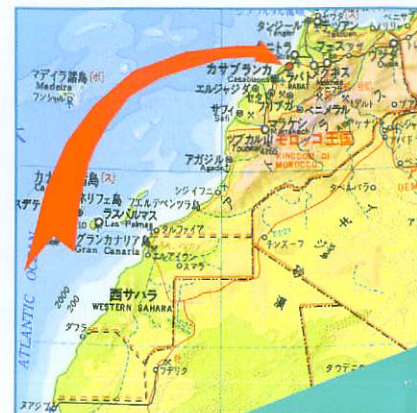
ワルザザード周辺とカスバ

エルフードからワルザザードにかけてのカスバ街道には多くのカスバ、クサールが並ぶ。繁華な町もあり、ホテルなどへの再利用もあれば廃墟もある。アイト・ベン・ハドゥは特に規模が大きく壮観だった。

マラケシュ

新旧の建造物が建ち並び、雰囲気もある街である。現在は国第四の都市だが、開発も進められている。ジャマ・エル・フナ広場と連なるメディナは相当なものだった。
(文・写真整理 片山守)

カサブランカ



◀バー・カサブランカで朝食
映画のセットをそのまま真似た有名なバー。



▶高級住宅街



▲海岸リゾート地のプール



◀▼マーケットの賑わい
←露天も多く並ぶ。

↓愛想のいいお兄ちゃん。

▼ホテルの窓から見たカサブランカの街並み



▲国連広場 学生など多くの人で賑わっている。



▲この町の象徴ハッサンⅡ世モスク
塔の高さは200m、内部収容人員
2万5千、全敷地で8万、実に
巨大である。



▼海越しに見るハッサンⅡ世モスク



←プールよりでかい浴場は、平素
40°の温度に保たれている。

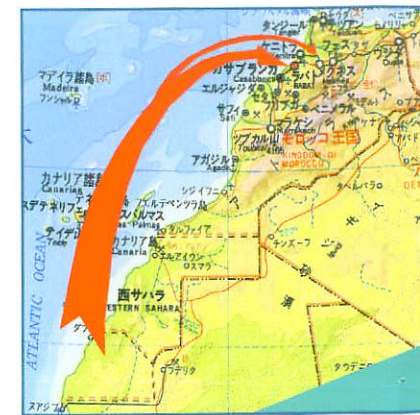


↑広大な1F。

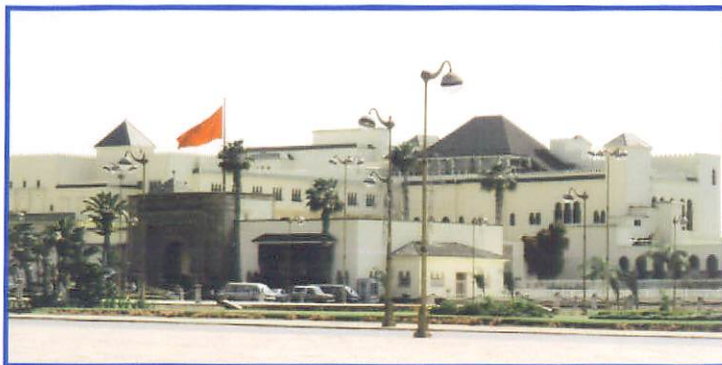


←右横手の入り口

ラバト・メクネス



←この中に
石棺が安
置されて
いる。



▲首都ラバトの王宮



▲市場の賑わい モロッコ第5の都市。広場は
市で賑わっている。



◀◀ウダイカスバ
←初めて入った本格的なカスバ。
なかなか立派な城壁。

↓カスバ内のアンダルシア庭園。



▲マンスール門 北アフリカでもっとも美しい
門だそうだが、それほどに感じられなかった。



▲フミース門 町の入口の重厚な門。
壁に開いた穴は、足場を組むために板を
通した跡。今は鳥の巣になっている。



▶モハメッドV世廟&
ハッサンの塔
ハッサンの塔は88m
予定が44mで未完
のまま。

▶町中の移動



▼キリスト教徒の地下牢
元は30キロ離れたヴォリピリスまで続いていたが、
観光客が幾重不明になり、今は壁で閉鎖された。
石壁には吊すための金輪もついている。



▼ムーレイ・
イスマイル霊廟
大きくはないが纏まった
綺麗な建物。ここで現州
の家族(亭主)、妻三ノ
子ども三人と仲良くなった



▲モハメッドV世廟から見るラバトの街並み



フェズ

▶▼セラミック工場と轆轤
→高スピードで轆轤を回す。
↓結構いい値段だった。



▲▶銀細工店とネーム入れ
銀の紅茶ポットを買ってしまった。
ネーム入れのサービス?付き。

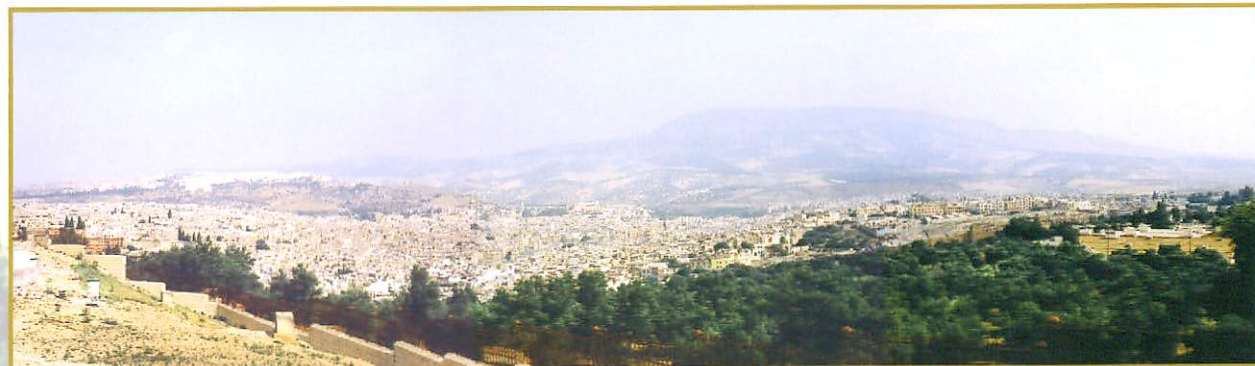


▲ブー・ジュールド門中と表(右)

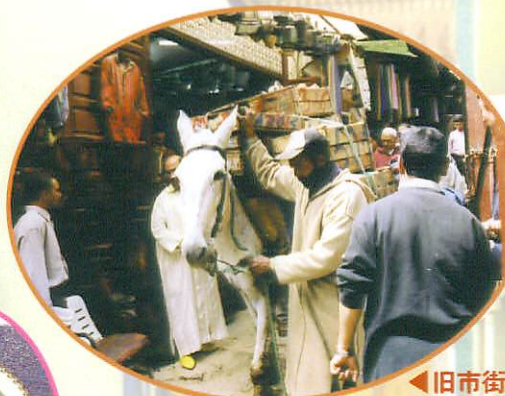


←この角度が中の見え
方がいんだそう。

▼王宮



▲高台から見たフェズの全景



◀旧市街の賑わい▶

↑ロバやラバが山のような荷物を
積んで坂道を進む。

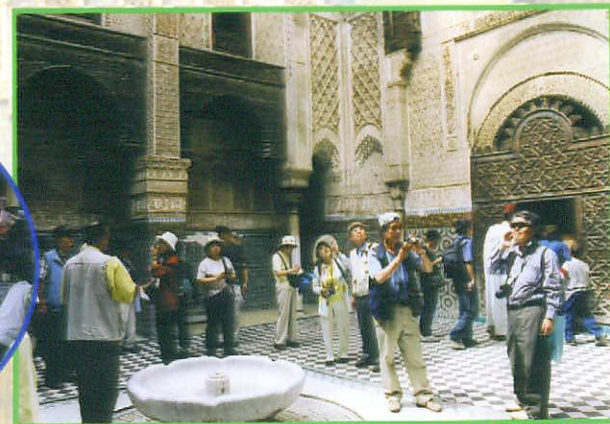


↑狭い道にありとあらゆる商品の
店舗が並んでいる。



◀モロッコ絨毯屋

▶革細工店の染皮場
店の裏手の皮の染色
場。物凄い臭いに、
みんな閉口していた。
店の入り口でミントの
枝を渡されたのは、そ
の意味だったのだ。



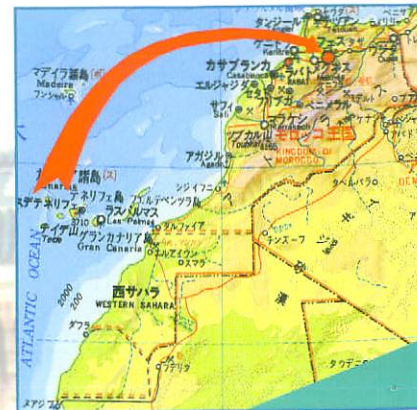
▲アッタリン神学校
歴史のある建物で、極め
て繊細な飾り彫りだった。



◀民家の主人
と入口▶

↑銀製のポットで
ミントティーを
振る舞われた。
職業は大工さん
だそう。

→入り口は狭い
路地。中流の
家庭だそう。



サハラ砂漠とエルフード周辺

砂漠の日の出



▲サハラ砂漠の日の出 朝4時前に起きてサファリカーで目標値に向かう。車を降りてから結構歩いた。



エルフードの化石工場

▼化石の加工場と仕上がり



アンモナイトやオーム貝が切り出され、機械や手で磨かれて製品化する。

トドラ溪谷

▼峡谷と訪れた車群



それほど広くはないが、切り立った岩はロッククライミングの場となる。多くの車が見学の人を乗せてくる。

▲サハラ砂漠を歩く 日の出を見て帰り、砂砂漠が広がる。



ベドウィンのテント

▼日の出の帰りに 砂漠を移動しながら生活する。



▲砂の高みで日の出を待つ



▶西村のおばあさん、帰りは駱駝に乗って

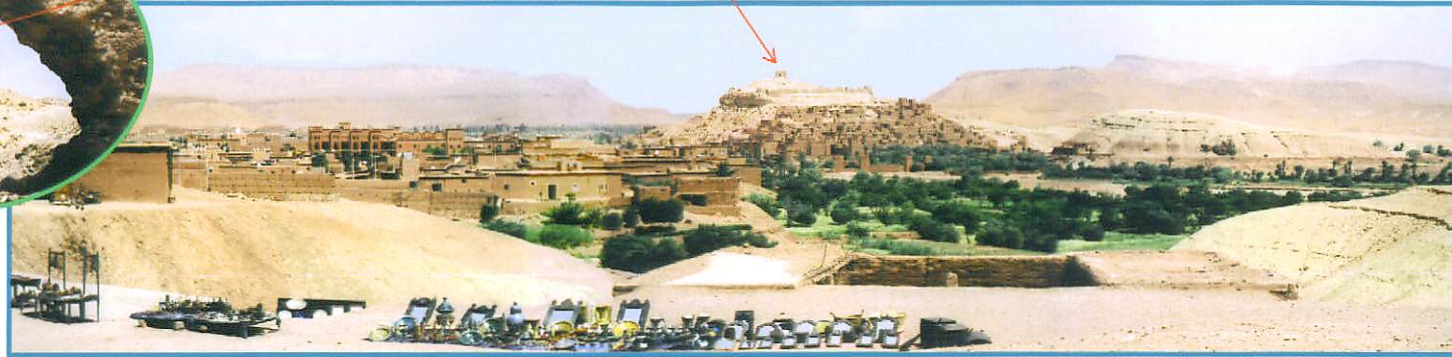


▲帰りを待つ駱駝たち

カスバ



↑カスバ頂上の
建物の廃墟。



▲アイト・ベン・ハドゥ頂上より周辺のクサルを見る 川を挟んで市街地が広がっている。

▲アイト・ベン・ハドゥ(ワルザザード郊外)
現在は4、50人の人が住んでいるそうだ。
その内の一軒を訪ねて、話を聞いた。



▲カスバ内の市場 賑やかな朝市の様子。



▶ベン・モロー・カスバホテル
(カスバ街道) 写真タイムだけ。
でもなかなか立派。



←下の階で、主人に茶を振る舞われる。

↓屋上には、鶴が巣を作っていた。



▶クラスタジオ
(ワルザザード近郊)
ティフトウトットの近く、
広大な敷地のスタジオ。
外国からのロケが多い
そうだ。周辺のカスバも
よくロケに使われる。



◀ティフトウトットカスバ
(ワルザザード郊外)
今はホテルとして使わ
れているそうだ。



▲国道を挟んだクサールの町並み(ワルザザード近郊)

マラケシュ



▲塔の裏手のモスク跡
無数の海鳥が空を舞っていた。



▲マラケシュのシンボルクトゥビアの塔
明るい色だが落ち着いた雰囲気がある。



↑入り口近く、ジャカラ
ランダの花が綺麗
に咲いていた。



◀▶▶商店街の賑わい

▼夜のジャマ・エル・フナ広場
夜は、屋台で多くの人たちが
飲み食って
いた。



↑木に細かな細工
が施されている。



↑華やかな色合いの衣料雑貨店。



↑細かな彫金が施されている。
全体に、銅などの細工の店が
多かった。

▶ババ宮殿
19～20世紀の首相の
官邸。王宮の名前は
お気に入りの愛妻の
名だそう。



→各部屋の天井がそれ
ぞれ凝っており、気
に入った奥さんか
らいい部屋に入れ
るのだそう。



▲ザード王朝の墓



↑建物の中は、王家の
人たちの墓。



←庭の隅で、猫が子どもを
育てていた。



▲ジャマ・エル・フナ広場 広大な広場には屋台や芸人が集まり、昼間から多くの人で賑わっている。